

3連覇への軌跡 準々決勝ハイライト

Quarterfinal JAPAN VS URUGUAY



後半頭から、辻尾を投入。この采配が当たり、辻尾は足の止まったウルグアイDFに対し、得意のドリブルで翻弄した

8月16日 18:00 マニサスタジアム

日本 1(0-0)0ウルグアイ

得点者(アシスト)

【日】79分:赤嶺真吾(辻尾真二)

J A P A N	U R U G U A Y
GK 時久省吾(3)	GK GONNET
DF 徳永悠平(4)	DF PAISAN
DF 小宮山尊信(3)	DF RINA
DF 秋葉陽一(4)	DF ARTEMOV
DF 登尾顕徳(4)	DF GONI
MF 伊野波雅彦(2)	(78分 SUAREZ)
(60分 兵藤慎剛(2))	MF MONCHIETTI
MF 藤本淳吾(4)	(70分 MARQUEZ)
MF 衛藤 裕(4)	MF RODRIGUEZ
MF 金澤大将(4)	MF SALSAMENDI
(46分 辻尾真二(2))	MF DELUCA
FW 赤嶺真吾(4)	(84分 HERMIDA)
(83分 廣井友信(3))	FW DEL
FW 小松 豊(4)	(84分 PIROTTO)
(46分 巻 佑樹(3))	FW GONZALEZ

S U B	S U B
GK 赤星 拓(3)	GK 22 STRANNEO
GK 飯塚 渉(2)	DF FISCHER
MF 池上礼一(4)	MF PANARIO
FW 原 一樹(3)	MF BARRENECHEA
FW 高橋大輔(4)	FW RAINERI
MANAGER 乾 真寛	MANAGER REGUEIRA

警告(C) / 退場(S)

【日】19分:伊野波雅彦(C), 89分:藤本淳吾(C)

【ウ】89分: MARQUEZ(C), 89分: RODRIGUEZ(C)

【主審】IDEAN

79分、赤嶺(左)は辻尾からのクロスをヘディングでゴール。苦しい時間帯にエースが試合を決めた



赤嶺執念の一発！！ FWの意地見せ、ベスト8突破

ジंकウス吹き飛ばし鬼門突破！！

無敗で予選リーグを突破した日本はウルグアイとベスト4入りをかけ対戦した。開始直後、衛藤がゴール30m手前の正面からシュートを打ち、まずは日本が流れをつかむかと思われた。だが、攻撃しようとパスを前線に出そうとしてもすぐインターセプト、ウルグアイのフィジカルの強さに負け、ドリブルで中央に攻め込まれるシーンが多く、消極的なプレーが目立ち、攻めの糸口が見つからない。同様にDF陣のラインは、マークのズレが生じて、いつ失点してもおかしくないような時間帯が続いていた。そこに乾監督の「もっと戦ってみろ！」と檄が飛び、状態は変わらず、このまま前半を終えた。

後半開始とともに、動きの悪かった前半に業を煮やした乾監督は、小松に代えて巻、さらに「昨日の練習で一番よかった(乾監督)という辻尾を投入し、攻撃に重点を置く采配。開始直後の1分、浮き足立つ日本に対し相手FWのシュートがゴールへ。しかし判定はノーゴール。オフサイドに助けられた。その後相手MFにアーリークロスを上げられ、危ない場面が多くなってきた。後半15分、兵藤を投入

兵藤・藤本のダブル司令塔ができあがった。そうするとボールが落ち着き始め、中盤での潰しやパスがうまく回るようになる。24分には中央にいた兵藤が右サイド辻尾へ縦パス。それをダイレクトで中央へクロス。それを巻がヘッドで狙うも入らず。ゴール一步手前までいくのに、なかなか決められないシーンが続いた。

前大会同様、今年もPK戦に持ち込まれるかと思われた後半34分、ボールを持った辻尾が得意の縦への突破を仕掛け、相手DF2人をフェイントでかわし、右足でニアにクロスボールを放り込んだ。それを走り込んでいた赤嶺がヘッドで合わせ、ついに先制点をもぎ取った。「ボールの精度もよかったし、決めるところはしっかり決められたんでよかった」と赤嶺。実はこの直前、なかなかタイミングが合わない辻尾に赤嶺は、ニアに放り込むで」と伝えてあったという。辻尾の精度の良い右足、赤嶺の点取り屋の優れた嗅覚、点と点がつながり生まれたゴールだった。

終盤、日本は巻を1トップに残すだけの守備固めに入り、赤嶺の1点を守りきり試合終了。試合後、乾監督は「ヨーロッパの戦いではベスト8が最高。新しい歴史を作った」と、今大会の山場を乗り切り、ほとと肩をなで下ろした。(荒川好和)